

## 欧州主要5ヶ国…講演・交流・観光…漫遊紀行

上田 隆右

プロローグ 超電導の国家プロジェクトは、いよいよ最終年度を迎え、超電導発電機の技術開発は着実に研究成果を挙げ、世界でも初めての実際の電力系統に連携した実証試験研究にも成功し、十二年間に亘る長い研究開発を終えようとしている。

超伝導研究の国際的な会議である欧州超電導応用技術会議（EUCAS、99）が今秋（1999年）スペインで開催される。世界への情報発信と技術交流の絶好の機会と考え、講演の依頼に応じて、これら世界最高級の開発結果を論文にまとめ、発表する事とした。

研究発足の当初、先進的に研究を行い世界のトップレベルのドイツ Siemens / KWU社、フランスの電力公社（EDF）と定期的に情報交換し、先方の進んだ技術をフランクに教わり、切磋琢磨して研究を推進した事が、今回の成功の原動力に繋がった。

今回の欧州での講演と情報交換を通して、報告と感謝の意を表すと共に、超伝導の世界的なリーダーで今は引退した旧知の Dr ランブリヒト等にもお会いしたい気持ちがある。

盛沢山の訪欧計画（内容、スケジュール等）に頭を悩ましている時、超電導発電機の開発に直接関与した東芝の T さんが同行してくれる事になり、願ってもない。技術に詳しく、語学は堪能、幅広い人脈、誠実な人柄で、正に鬼に金棒、大いに助けられた。

九月十二日 J L ロンドン行（十一時五十分）に、はやる気持と重い荷物をもって乗り込む。良く登った北アルプスの真上を飛び、美しい山並みが手に届くようだ。富士山が見送ってくれる。シベリヤ上空から広大なツンドラ地帯にアムール河がスネークして流れる。所々に三日月状の湖沼が印象的。北欧はスカンジナビア半島を横切ると点在する島々が綺麗に見える。美しいロンドンの街並みと緑の公園を眼下にしながらいースロウ空港に到着する。

構内は広くトランジットは大変、時間を気にして待合室で待つが落ち着かない。出発ロビーで同じ会議に行く電中研の K 君らに、搭乗間近に T とも会えてホットする。一路バルセロナへ約一時間、空港に着く頃には日もたっぷり暮れていた。

会場のシツチエスへのハイウェイからの灯は、遠く離れた“異郷の地”で心細さと共に、これからの講演や交流への闘志が沸いてくる。

九月十三日

シツチエスのリゾートホテル（ANTE MARE）はメルヘン的で白い壁に包まれた迷路の部屋、美しい木や花に覆われている。朝のモーニングはプールの横のテラスで新鮮な果実と豊富な野菜、ハム卵など美味しく違和感はない。時差を忘れ一時間ゆっくり休み、Tに起こされるハプニング。

会場の立派なHotel accommodationへ下見と登録に行く。参加者も集まっており少しは緊張する。受付のスペイン嬢は明るく、笑顔が魅力的。

地中海に面した美しい白亜の街並みを海岸沿いに散歩しながら帰る。途中に原色の色鮮やかな子供服の店があり、Tは孫の土産を買おうと言う。私も丁度同じ約一歳の女の孫、連しょんでなく、連買する。食料品の店で買い求めた地元の食材で、ワインを飲みながら、Aの部屋で前途を祝う。

床に就いても中々寝付かれず本番の講演（苦手な英語）に備えて何回となく練習する。木立を挟んだ隣のマンションの一室から若い男女のはしゃぐ嬌声が気にかかる。ここは高級なリゾート、夏のバケーションの地、海水浴の人も多く、街で派手な水着姿の男女も見掛ける。

九月十四日

土砂降りの大雨、タクシーを呼ぶが来ない。同宿の発表者も大慌て、やっとの思いで掴まえる。会場は外人ばかり二百人の超満員、緊張の連続、無事発表を終え拍手を耳にするとホットし、今迄の苦労が吹っ飛ぶ。増刷の論文コピー五十部も直ぐ無くなる。TにOHをお願いし、常連の独・カールスルーエ（FZK）コマレック博士の質問にも対応して貰い大いに助かる。

昼休み、調査団長の小長村京大教授から良かった、鼻が高かった”と喜んで頂き有難い。直ぐ下のヨットハーバーのレストランでY新潟大I早大の先生達と美しい海を眺めての食事。

後は大役の仕事から解放されリゾート気分地中海の宝石、シツチエスの街を、存分に探索し楽しむ。旧く海外交易で栄えた豪商の館は、豪華で美しく、ミニ美術館として公開されている。手の込んだ外飾（金具）は白壁に映え、美術品、絵画、陶磁器、家具等調度品は見事で古の栄華が偲ばれる。格式ある部屋から広大な海を眺めると中世の大富豪の気分タイムスリップし豊かな気持になる。二、三の館を梯子する。

九月十五日

朝からバルセロナへ行く。郊外電車は速く街や工場、野原、海

岸を走り続ける。

まずはガウディの聖家族教会。中世建築の粋を結集した多くの奇抜な塔、複雑に絡まる宗教建造物は異様で目を見張る。協会の出入口や外壁至る所にある医師の彫刻は、厳めしく美しい芸術作品だ。未だに修復工事は継続しており、完成への弛まぬ努力に驚かされる。

市の中心にあるガウディの特徴ある建物を眺めカタルーニヤ広場へ。市民の憩いの小公園、ハトも多く木々もあり和む。ランプラス通りは真ん中に花屋、小鳥屋、古本屋などが並び混雑している。カセドラルは大きくて荘厳。街のシンボルでもある。屋上まで上り美しい市街を眺める。街角の店先で軽食、風情がある。Tは拘りに狙われたと言う。注意！

歩いてコロンの塔へ、新大陸を発見したコロンプスの寄港を記念した建造物で、我々の研究開発の丁度今（苦難の末、新技術の成功）を象徴しているようで面白い。

市外に出てガウディの地下教会へ行く。可愛い女子学生に尋ねてやっと辿り着くが廃墟で侘しい。丘の上に建つ倒れかかった城跡が印象深い。スペイン広場に戻りスペイン村へ入る。各地の建物、文化、伝統品が集められた小ミュウジウム。直ぐ横の風格のあるカタルーニヤ美術館を見る。この地方の古い教会の中央、壁

面の漆喰に描かれたキリスト、マリヤ像を集め、保存・復元した歴史的、宗教的な色彩が濃い。古今、この地の人々の信仰・敬虔の権化を感じて、単なる絵画と異なりこれら重厚な壁画は見応えある。

シツチェスに帰り、人形の館博物館を見る。世界の大小の人形が、所狭しと家全体の部屋に飾られ壯観、日本の京人形もあり郷愁を誘う。暗闇を出ると懐かしい人の声、小林、大橋（東大）Y先生など日頃お世話になっている方々にお会いする。皆で海辺のレストランに入り賑やかにパエリアを食べる。偶然とは不思議な物、食事を一緒にしたいと思っただけに：地中海の新鮮で豊富な魚介類を炒めた異郷の料理は最高に旨い。

成功を喜び合って、楽しく美酒に酔う。

## 九月十六日

朝早く、長い海岸をのんびり独りで散歩、前方は地中海が果てしなく続く。更に足を進めると、木々に囲まれた高級な別荘と綺麗なホテルが一層景観に彩りを添え絵画的で美しい。

昼の飛行機（十二時）で首都マドリッドへ。

先ず世界的に有名なプラト美術館へ行く。館内は巨大で、多くの絵画や彫刻が展示され、代表的なゴヤ、エル・グレコなどの名画を重点に駆け足で鑑賞する。

立派で素晴らしく迫力満点だ。豪華な王宮は余りの大きさに度肝を抜かれる。建物の広い内部は美しい絨毯を敷き詰め、シャンデリヤは立派で大きい。贅を尽くした最高の美術、工芸品、優雅な家具など調度品が並べられ、中世期、栄華を極めた王の権力、財力と富、ロマンを象徴しているかのようだ。見事で素晴らしい。

夕食を兼ねて町の中心へ、Tは日本で買うより安いと奥様にハンドバッグを買う。羨ましい。帰って娘に話すと自分も欲しかったと言う。

綺麗なレストランで食事し、情熱的なフラメンコを…と探し歩くが未だ早いためか見当たらない。明朝早いので諦めて帰る。Hotel Sofitel: Madrid Plaza Espana: は伝統ある立派で豪華、少し王様の気分になる。

九月十七日 空港で関電のNさんに会う。奥さんとのスペイン旅行とか。異

郷の地、偶然にお互い驚く。講演の記念に微笑の少女で名高いリアドロの磁器の置物をTA共々買い求め、大きな荷物を持つ羽目になる。

フランスのCharles de 空港には、EDFの車が待っている。CIMA 研究所はパリを挟んで反対側、市内を半周回ると、のどかな田園風景が広がるいい環境にある。テロンさんの出迎え、久し振りの再会、懐かしい。

情報交換をして設備の見学をする。超電導ケーブルの試験をしようと云う。国営だけあって、電中研より大きい。市内のホテル holiday inn に送つてもらう。

観光船でのセーヌ川のクルージングは夜風が快く、ライトアップしたエッフェル塔、ノートルダム寺院、自由の女神像は夜空に浮かび美しい。川沿いの上品なレストランで食べた海鮮料理は、殊の外美味しかった。

## 九月十八日

「パリの休日」、ジベルニーのモネのアトリエと睡蓮の池を観光する。セーヌ川を下る郊外の景色は牧歌的で絵のように美しい。晩年を過ごした建物（アトリエ）と庭園は、自然の陽光を受け、赤、黄、白、桃、色とりどりの花々に囲まれ光り輝いている。

特に一面に咲く真紅のダリヤは満開で綺麗だ。枝垂れ柳に覆われた池は澄み、睡蓮が浮かんでいる。静かに流れる水面に木々の緑を映し、日本的な橋も情緒がある。自然の楽園、夢の世界にいる気持ち、旅の疲れも吹き飛び、心身共にリフレッシュする。

印象派のオルセ美術館が休みとあって市庁舎、ノートルダム寺院に行く。礼拝堂は大きく。荘厳なステンドグラスに驚かされる。夕方の飛行機でチュウリツヒ

へ、川沿いに町が点在し、大きな町を中心に道路が放射状に延びている。広い広い緑の平地と広大な鬱蒼とした黒い森林のある風景はドイツ南西部の特徴か？

中央駅から湖畔まで夜の目抜き通りを散歩する。対岸の灯が静寂の湖面に瞬き、揺らぐ眺めはロマンチックだ。駅に近い M A R Z O T T Z U R I C H は近代的な高層ホテル。空港で買った山行の為のチーズを置き忘れ残念。

## 九月十九日

6時前、未だ暗闇の駅のホームでパンを食べ腹ごしらえする。

ルツェルンに着く頃、薄く赤らんで来る。立派な駅には人影がない。乗継ぎの間があり旧市内を一人で散歩する。有名な屋根のある橋を渡るが誰もいない。川の中の塔と群れ遊ぶ水鳥、川岸のメルヘンの家並み、川面に映る灯がのどかで絵画のように美しい。大きな教会も覗くが未だ人は疎ら。

エンゲルベルグ行き of 真紅の半登山電車は、緑の豊かなハイジールの世界、段々と高度を上げ山々も険しさを増すとリゾートホテルの立ち並ぶ終点に着く。正面には雪一色のアルプスの高い峰々が姿を見せ感激する。

チトリスの頂上へと思ったが強風で中間まで二人乗りのゴンドラで行く。小さな湖を回りスキーリフトで峠まで、風が吹き出し肌寒い。パスの山小屋のテラスで食べた持参の果物？は美味しかった。小高い丘に登ると切り立った憧れのスイ

スアルプスの山脈が、眼下の湖とマッチして遠望でき素晴らしい。風は吹き荒れ、間一髪最終便でやっと下る。ゴンドラからの緑の牧草地は鮮やかで、点在する家々と調和し、雪景色の高い山々とのコントラストは絵画的で、スイスの印象を一層深め、大自然を満喫した。ルツエルン構内でパンと飲み物を列車に持ち込み、美しい山、湖、川を眺めながら味わう。ホテルに直行し預けた荷物を手に空港へ。離陸すると後方に白銀のアルプスの山々が雲の上に綺麗に眺められ、ドナウ川の上をドレスデンへ。少しハードだったが、牧歌的で心癒される、満足した楽しい休日だった。

九月二十日

M R C U R E N E W A D R E S D E N ホテルに8時、

D r i r i e z e が迎えに来てくれる。重厚で格式のあるドレスデン工科大学で講演と討議を行う。先生、学生は新技術の成果に関心が高く、厳しい質問も多く、時間を忘れる有意義な一時だった。

館内には s i e m e n s の旧い大きなモーターなどが展示され伝統の重さを感じる。二時頃から旧市内を案内してもらおう。

バロック様式のツヴィンガー宮殿など壮大で優美な建物が、大きな中庭を取り囲んで建っている。美しいゴルベ川近くの古風なレストランで遅い昼食をご馳走

になる。宮殿の外壁一杯に描かれたマイセンの磁器で作られた「君主の行列」は見応えがある。歴史的な建造物である大教会は大々的に修理していた。マイセンの磁器をヒルトンHのショウウィンドで見ることが出来ない。

夜遅い便（二十時二十五分）でデュッセルドルフへ、ホテル日航は日本人が多く気が休まる。

九月二十一日　朝八時、シーメンスの車が迎えに来る。工場に入ると旧知のDr.L. Iとの嬉しい再会、今迄の懐かしい交流の数々が走馬灯のように目につく。

二十人程を前に研究成果を説明し、最後に感謝を述べる。現役は研究をしていないためか関心は薄い。OBはかつて世界に先駆けて研究を進めていた自負心から真剣に聞き、質問も多い。最後に「素晴らしい成果だ。是非実用化を：」熱いエールと成功へのスタンディングオベーションに大感激！。

十年前、お互いに超電導発電機の研究を成功させ実現させようと熱っぽく話し合った事が思い出され、感慨深いものがある。ゲストハウスでの歓迎のランチも、心なしか元気が無く、寂しい。「実用化には資金、経済性、情熱（やる気）」と長老は言う。正に金言だ。

今や世界のトップランナーとしての責任の重大さを実感し、D r Lの車で工場を後にした。

郊外の閑静な高級住宅街の私宅に招かれ、奥さん共大歓迎を受ける。趣味の良  
い広い家の中、花々の咲く美しい庭を案内され、地下のホビー室で思い出のスラ  
イドを見る。日本旅行やスイスのアルバムで話は尽きない。奥さんの和服姿と扇  
子のポーズは印象的。お手製の心のこもった料理とお菓子は美味しく心が和む。

ビールとワインで時のたつのを忘れ楽しい一時を過ごす。初めての素晴らしい、  
過分の接待に大感動、忘れえぬ思い出である。D r Lはリタイヤー後は、悠々自  
適で家の修復、スイスの別荘で山歩きやスキーなど人生を優雅にエンジョイして  
いる。私も見習わなくては：と痛感する。八時頃駅で別れる。

九月二十二日　早い飛行機（七時二十五分）でロンドンへ飛ぶ。

Tは仕事で別行動。Tの勧めたY O R Kへ二時間弱のロマンスカーの旅。

窓の景色は牧草の生い茂るのどかな田園風景、駅付近や点在する人家にはシン  
ボルの教会があるのが印象的。イギリスの美しい自然を堪能する。

Y O R Kは城壁に囲まれた古いイギリスの代表的な街と言う。ヨークミニスタ  
ーは壮大で綺麗、街のシンボルでもある。中世の教会建築で有名。ステンドグラ

スは素晴らしい。古い華麗な大学や煉瓦造りの街並み、人の混み合うマーケットなど時間の許す限り歩き回り、風土に接する。

十六時過ぎの列車に乗ると山高帽を被ったユダヤ系？の陽気な大家族と一緒にいる。沢山の子供がはしゃぎまわり賑やかだ。旅の思い出に写真に収める。キングスクロス駅に近づくにつれ天気は悪くなり雷が鳴る。到着した時は大粒の雨が土砂降り。天井から洪水のように激しくプラットホームに流れ落ちる様は異様で、恐怖さえ感じる。Tも心配そうに待っている。本当に有難い。

今回の旅行で、初めて、最後の、小さなパニックだった。

空港の売店でカシミヤのマフラーをお土産に買う。Tはパリで紅茶、ロンドンではパンと、世界の美食を求め、感心する。JL（十八時五十五分）に乗る。隣は石油会社の定年の人、イギリスを奥さんと旅行しYORKも楽しんだと言う。一杯飲みながらの四方山話に今迄の緊張も解け、重荷だった仕事、楽しい観光旅行の疲れが一遍に出て良く眠る。

**おわりに**　今回の講演・交流・観光旅行は、欧州の各都市を歩き回り、充実した素晴らしい旅だった。

スペインでの超伝導の国際会議で我々の研究成果を講演し、全世界に広く情報

発信し、声高々にアピールする事が出来たのは最高の喜びだった。発足以来交流のある siemens EDF の二社にも最後の情報交換を行い、感謝の意を含めて一区切りをつけ得たと思う。また旧知の DR LAMBLIERT、LIESE にお会いし、成功を喜び合い、研究談義に花を添ええたのも嬉しかった。

特に DR の私邸に招かれ、心温まるフレンドリーな過分の歓待と熱いエールには、一生忘れ得ぬ貴重な思い出だ。

この講演と交流の慌ただし日程の中で、休日を最大限に利用して、スペインのガウディの教会と美術館巡り、ジベルニーのモネのアトリエと睡蓮の池、スイス中央部の絵画的なアルプスの小トレッキング、英国の伝統的な街並みと大聖堂のヨークと広大で牧歌的な田園風景など欧州の自然・風土・文化・芸術：の一端に接し、非常に有意義な毎日の連続だった。

(追記) 二週間に亘る海外旅行から帰り、国際会議の出張報告、超伝導国際シンポジュームの開催と発表、慰安会など慌ただし日々が目白押しに続いた。未だ旅の疲れが十分癒されない中、十月上旬の連休に荒川・赤石岳に弟達と三泊四日の強行軍の登山をした。

特に高低差のある三千級級の尾根の縦走コース十二時間は厳しくヘトヘト。富

士山、北岳が身近かで応援してくれた南アルプスの深山・幽玄の魅力を十二分に堪能した山旅だった。  
(2001・12・2 記：一部加筆)

**最後に** 「くろしお」発刊以来五回に亘って「山・超伝導・家」の三題についてその時々々の出来事、思いなど雑感を延べさせて頂いた。この締め括りとして最近の状況は？

**山** 「年間累積の山頂標高合計、三万<sup>円</sup>」を目標に、ここ十数年、北アルプスを中心に挑戦し、2003、4年の四万<sup>円</sup>(鹿島槍など後立山、烏帽子鷲羽裏銀座の縦走)をピークに、前穂奥穂縦走(00)、剣立山登頂(02)大日3岳(06)北の俣黒部五郎縦走(10)など年平均二万五千<sup>円</sup>の山々を踏破し、累積の

標高では三十三万<sup>円</sup>に達する。《富士山の九十回登山に相当》

近年、義母の介護や弟達の仕事の多忙

年間の累積山頂標高 合計の年次別推移	
1998(年)	23(千 <sup>円</sup> )
99	23
2000	22
01	22
02	28
03	42
04	40
05	24
06	25
07	23
08	8
09	18
10	28
11	4
12	0

などから時間的な余裕がなく、11年の燕岳を最後に山登りから遠ざかる羽目になっている。未だ氣力だけは旺盛だが、実際は急な登りが厳しくなり、体力の限界？なのか：悔しいが年（傘寿の齡）には勝てないと思う、今日この頃である。

### 超伝導

本命であつた超電導発電機の研究開発は、幾多の苦難を乗り越え、世界でも最初に六十万kw級実用機の技術を確立し、2004年、成功裡に終了した。しかし、近年の世界的な諸情勢（大不況等）から、この実用化は、残念ながら未だ陽の目を見ていない。

同時に進めた先進的な超伝導線材や冷却装置の開発成果は、スイスの欧州原子核研究機構（CERN）に設置された巨大な世界最大の加速器（LHC）の心臓部に採用され、近年話題の「神の粒子：ヒッグス粒子」発見に、陰ながら大きな役割を果たしており、日本（我々の企業との共同研究）の長年に亘り培ってきた技術が着実に花を開き、嬉しい限りだ。また最先端技術である夢の高温超電導材料の研究についても、電力ケーブル等への適用を目指して活発に実証研究が進められており、何時の日か実現されるのを期待したい。

### 家

今迄交友の少なかった土佐高校同級生と付き合ったり、ご一緒する事が多

い。佐竹さんのエイジシユター（年齢以下のスコア）達成の素晴らしい快拳（2011年夏）を機会に、年数回ゴルフのご指導？を頂いている。

再度の快拳！！を期待しプレーしているが、何時も足を引つ張り申し訳なく思っている。彼のホームコースは三重県、コースの立地環境は素晴らしく、又ご一緒する従兄弟さんも同年輩で略同じレベル、和気あいあいのお付き合いは最高だ。（少々遠いのが玉に傷：奈良、京都2府県を通過し片道3時間強）

長年海外勤務をし最近リタイアした山下君とは、家が近く介護にも共通点があり、時々会って息抜きをしている。一昨年春、彼の案内でバリ島へ伊野部、鍋島さん達と観光旅行したのは、学生時代の気分に戻り、最高に楽しかった。

生まれて最初の貴重な経験もさせてもらった。一昨年六月バイク事故（軽自動車に当てられ転倒）で救急車のお世話になった。先方の注意不十分、幸運にも殆ど傷害は無かったが、以後安全運転に注意している。また、昨年は右肩の大きな腫瘍で、（数年来手術を回避していたが…）酷く脅かされ、全身麻酔で切除して、数日間近畿大病院に入院した。

ゴルフと言えば昨年末名門の聖丘(旧P.L.)カントリークラブでのゴルフ納め、それも最後の18番ホールでバンカー越えをチップインし稀有な大フロック。この幸運で年平均スコアも不名誉な“百獣(十)の王”に成らずに治まった。

今年に入り正月に、麻雀では、今迄一回も出来なかった夢の“国士無双”の役満をあげた。その後、役者は変わるが、“国士無双”“人和”と、この半年で計3回も役満が立て続けに成立した。これら確率的には信じられ無い数々の事象に、超偶然性、神懸かり、神遠・神秘の世界を垣間見る思いがしている。

人生良い事もあれば悪い事もある。一喜一憂せず自然の摂理に従い「心の赴く儘に矩を越えず」の心境で、のんびりと生活をエンジョイしたいものである。

(南紀白浜へ山下君との愉快的な男二人旅から帰って 2013・6・26記)